

4.2.3. UCHI モデルの妥当性評価

まずA海域について紹介する．漁船搭載の ADCP と UCHI による東西・南北流の比較結果を図 42-5 に示す．縦軸に計算値、横軸に観測値をプロットしたものであり、計算値は ADCP 観測と同時刻・同水深における出力値である．観測値は 10 分間の連続計測による中央値と標準偏差から成っており、ここでは標準偏差が中央値より小さいもののみ使用した．東西・南北流速ともに 1 : 1 の直線（図中の赤線）に沿って分布しており、平均二乗誤差(RMSE)は東西・南北方向でそれぞれ 0.059 m sec^{-1} 、 0.062 m sec^{-1} となった．複雑な海岸地形を有する伊万里湾のような海域においても高い精度での流れの再現性を確認することが出来る。

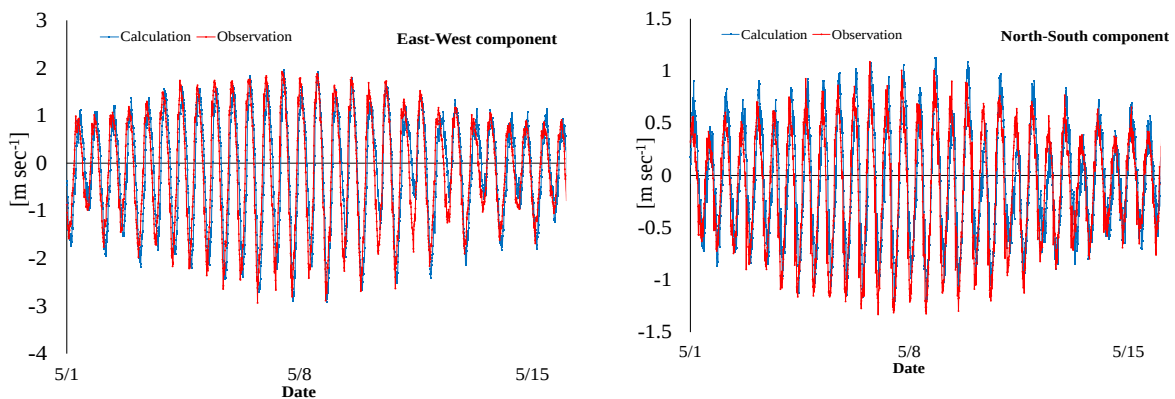


図 42-6 五島・田ノ浦瀬戸(Sta.T)における海底上 20mにおける(a)東西・(b)南北流速との比較

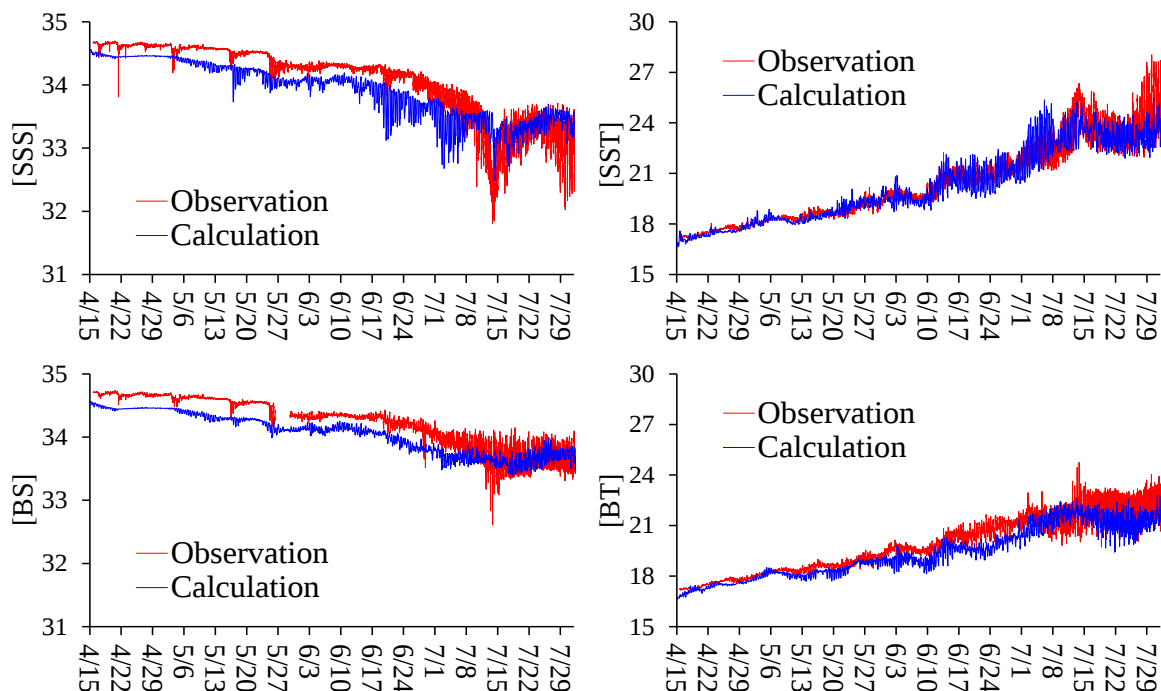


図 42-7 五島・田ノ浦瀬戸(Sta.T)における海面下 2mおよび海底上 0.5mにおける水温および塩分比較(青：計算値 赤：観測値 上段：海面下 2m 下段：海底上 0.5m)